



石堂裕司さん・陽斗さん  
親子でドローンの資格を取得



南種子町で兼業農家をしている石堂裕司さん（47）と息子で種子島中央高校3年生の陽斗さん（17）が、産業用ドローンオペレーターの資格を親子で取得しました。鹿児島県内で高校在学中に取得したのは陽斗さんが初めてです。この資格は、国土交通省が指定している教習施設でドローンの操縦や農薬散布の知識と技術を数日間かけて学



び、検定に合格することで、技能認定されます。

2人は、陽斗さんの夏休みを利用して、5日間講習を受講。検定試験にも見事合格し、9月に認定されました。

裕司さんは「若い世代に省力化できる農業があることを知ってほしい」、陽斗さんは「資格を取得できてうれしい。地域の農業に貢献していきたい」と話しました。

資格取得後は、自分たちの畑に向かい、練習を重ねていきます。



ドローンの実用性を確認



中種子町の高磯勝俊さん（54）のシキミ畑で14日、種子島で普及拡大が続く小型無人機（ドローン）がシキミ畑での防除に活用できないか確認するため、試験運転が行われました。

試験運転にはシキミ生産者や空種子合同会社、JA職員ら10人が参加。合同会社の産業用ドローンインストラクターの高井和道さん（55）

シキミ畑で試験運転

が、シキミ畑20㍓に農薬の試験散布を行い、薬剤の落下状態や散布時間などの作業効率性を確認しました。

高井さんは「種子島ではドローンの使用率が極端に増えているため、どの農産物で実用できるのか確認を進めていきたい」と話しました。

種子島では、水稲、でん粉原料用甘しょ、青果用サツマイモなどでドローンによる防除が普及しており、合同会社では、今年9月からサトウキビのドローン防除も行っています。

一方で、ドローン防除に対応した農薬の登録が進んでおらず、ドローン防除ができない農産物が多いことが課題となっています。

高磯さんは「ドローンで農薬散布ができる農産物は他にも沢山ある。登録の拡大が生産者の省力化に繋がる」と話しました。

【全体運】 気になることが多そうですが、次第に改善へと向かいます。考え過ぎは禁物。時が味方してくれるまで待って◎  
【健康運】 無理をせずスローモードでの行動を心掛けて  
【幸運を呼ぶ食べ物】 八つ頭



牡牛座  
4/20  
～5/20